

2026年5月19日



キーワード：人材育成、フューチャー・デザイン、大学職員、能力開発、SD(Staff Development)

未来人が阪大を動かす!?

「フューチャー・デザイン」を事務職員が学び、実践!

～将来世代の視点を大学経営人材の育成に導入する先進的プロジェクト始動～

❖ 概要

大学を取り巻く環境が急速に変化し、職員に求められる役割が高度化する中、大阪大学は 2026 年度から、長期的視点で企画立案が可能な企画人材の育成を強化することを目的に、注目が高まっている「フューチャー・デザイン(Future Design)」(p.3 参照)の考え方(図 1)を理解・実践する「大阪大学 事務職員×フューチャー・デザイン 人材育成プロジェクト」を開始しました。従来の研修・OJT で培ってきた力を基盤に、大学経営に必要な“長期的視点×実装”の企画力を、3 カ年のステップで強化・展開します。

1 年目となる今年度、受講者は本学大学院工学研究科の開講科目「フューチャー・デザイン」の聴講や演習を通じて、フューチャー・デザインの最前線や方法論を学ぶとともに、その研究や実践をリードしてきた工学研究科 原圭史郎教授(「フューチャー・デザイン革新拠点」拠点長)監修のもと、ケーススタディや来年度以降に取り組む具体的な課題設定等を行います。2 年目以降は、初年度の実践者がコアメンバーとなって、新たなメンバーとともに大阪大学の課題に対してフューチャー・デザインを実践します。

本プロジェクトにより、本学の経営・企画力を根本的に強化するとともに、組織全体の持続的な成長を促進することを目指します。事務職員の人材育成に主眼を置いてフューチャー・デザインを体系的に導入する国立大学の事例は限定的(本学調べ)であり、本取組はその流れを広げる画期的なものです。

つきましては、本プロジェクトの積極的なご周知とご取材をお願い致します。(p.3「取材について」参照)

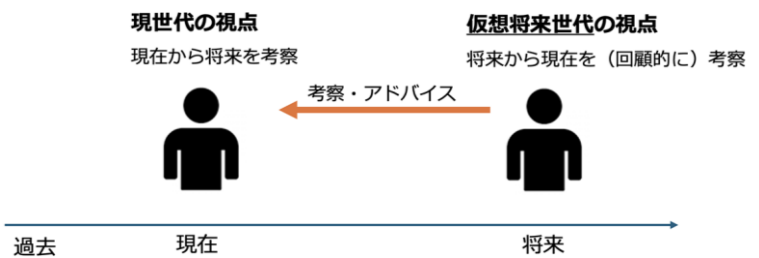


図 1 フューチャー・デザインの考え方

【原圭史郎教授(大阪大学大学院工学研究科「フューチャー・デザイン革新拠点」拠点長)のコメント】

大学経営に長期的かつイノベティブな観点が必要となる中、大学運営を支える事務職員がフューチャー・デザインの考え方を学び、経営計画と運営の中で実践していくプロセスそのものに大きな意義があると考えます。「フューチャー・デザイン」の講義を通じて、大学院生と大学事務職員が“共に学び合う”ことも本プロジェクトの大きな特徴です。このような「世代」と「所属(部局、ポジション)」を超えた、大学全体での協働的な学びと実践を可能とするのがフューチャー・デザインだと考えます。

2012 年に大阪大学で設置された研究会「七世代ビジョンプロジェクト」に端を発するフューチャー・デザインについては、これまでも多様な研究・実践が行われており、大阪大学はこの分野を先導してきました。そしてこの新たな実践活動が大阪大学でスタートすることは、日本の高等教育機関における新しい人材育成のモデルを世の中に提示していくことにもつながると考えています。本プロジェクトにぜひご注目ください。

【高田行紀理事・副学長(リスク管理、事務組織、質保証推進担当)コメント】

大阪大学の経営基盤を強化し、持続的な成長につなげていくためには、それを実装できる人材の育成が不可欠です。本プロジェクトを通じて、事務職員が、将来世代の視点もしっかりと取り入れ、課題設定から戦略策定、実行まで担える力を格段に高めることを期待しています。

❖ 3年間の人材育成ステッププロジェクト

本プロジェクトは3年に渡って、本学の未来を担う事務職員がフューチャー・デザインを学習するとともに、自律的にプロジェクトの方向性を決定し、大学の課題に取り組み、実践にまで落とし込む予定としています。

1年目となる今年度は、様々な分野の中堅事務職員13名(コアメンバー)が参加。4月～9月は、大学院生とともに本学大学院工学研究科の開講科目である「フューチャー・デザイン」(複数の講師によるオムニバス形式)の授業・演習を大学院生とともに受講し、各分野の専門家や実務家からフューチャー・デザインを学びます。

さらに10月以降は、工学研究科 原圭史郎教授(「フューチャー・デザイン革新拠点」拠点長)監修のもと、次年度以降の具体的な課題の企画立案及び2年目以降のプロジェクトメンバーの募集要件等を検討します。

2年目以降は若手事務職員等(未確定)の新たなメンバーも参加し、コアメンバーが独自に設定した本学の課題に対してフューチャー・デザインの実践をしていきます。

❖ プロジェクト実施の背景と展望

大阪大学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、教職協働のもとで、新たな大学経営に向けて「挑戦」し、「変革」を楽しみながら推進できる人材の採用・育成に取り組んでいます。

近年、大学を取り巻く環境は急速に変化しており、大学職員の担う業務も高度化しています。地域社会の中で、大学が果たす役割への期待も大きくなっている中、大学職員には、高度な専門性や大学の経営戦略を企画・立案・実行できる人材が求められており、これらの人材には長期的な視野と未来志向の思考が不可欠です。

本プロジェクトでは、そのような人材に対して、本学がその研究を先導してきた「フューチャー・デザイン(Future Design)」の考え方を理解・実践してもらうことで、25年後などの長期スパンでの企画立案が可能な人材を育成・配置することを目的としています。フューチャー・デザインの考え方を本学事務職員に浸透させ、本学の経営・企画力を根本的に強化するとともに、組織全体の持続的な成長を促進することを目指します。

これにより、本学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を、教育・研究に加えて大学経営の面からも実装し、大阪大学から社会への価値還元力を高めてまいります。

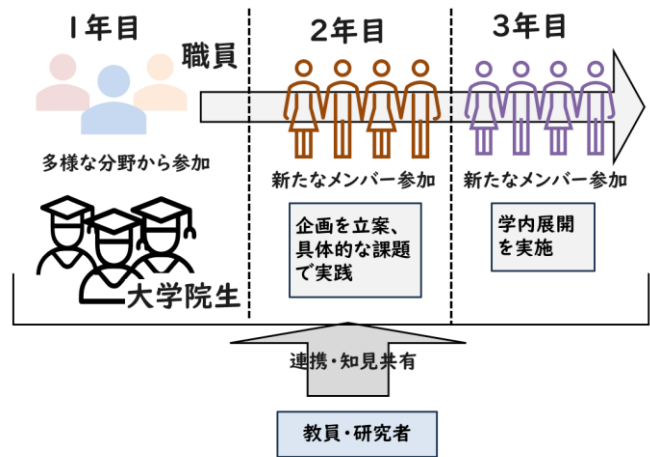


図2 プロジェクトの段階イメージ図(1年目～3年目)

❖ フューチャー・デザイン(Future Design)について

フューチャー・デザインは、**将来世代に持続可能な社会を引き継ぐための新たな社会の仕組みのデザインと実践**のことです。意識的に将来世代の視点を現在の意思決定に取り入れることで、持続可能な社会への変革を導くものです。

大阪大学の研究グループはこれまで、フューチャー・デザイン研究と産学官と連携した実践そして教育を先導してきました。特に、「**仮想将来世代**」という概念を導入し、**参加者が未来の住民や関係者になりきって、将来世代の視点から現在の意思決定を評価・考察**します。これにより、近視眼的な見方を制御して、より長期的かつ持続可能な政策や戦略や合意形成を導き出します。この手法は、地方自治体や政府機関、企業(電力会社など)でも実践されており、都市計画、再生可能エネルギー導入、カーボンニュートラル政策、水道インフラ維持管理など、幅広い分野で成果を上げています。

❖ 参考 URL(原圭史郎教授へのインタビューやフューチャー・デザインの実践事例等)

・大阪大学 Dialogue 記事「**思考をタイムスリップさせ、遠い未来を自分ごとに。社会の仕組みを変えるための、フューチャー・デザイン実践。**」

URL <https://dialogue.osaka-u.ac.jp/260/>

・大阪大学大学院工学研究科テクノアリーナ最先端研究拠点 **フューチャー・デザイン革新拠点 実践事例**

URL <https://www.cfi.eng.osaka-u.ac.jp/fd-research/practices.html>

・大阪大学工学部・工学研究科公式 Youtube チャンネル 動画「**テクノアリーナ 最先端研究拠点部門「原フューチャー・デザイン革新拠点」インタビュー**」

URL <https://youtu.be/1u-5tZMItFk?si=0dzicfcnYs2YtL62>

・大阪大学大学院工学研究科 原研究室

URL <https://www.cfi.eng.osaka-u.ac.jp/hara/>

❖ 取材について

コアメンバーとなる事務職員が参加している「フューチャー・デザイン」は**4月～7月23日(木)まで、毎週木曜日3限(13時30分～15時)**に吹田キャンパス 工学研究科にて開講しています。

今後の授業の全日程でご取材可能ですが、特に**6月25日(木)～7月16日(木)の4回はグループ演習を実施**しますので、事務職員と大学院生が共に学び合う様子をご覧ください。原圭史郎教授への取材も可能です(時間は要調整)。是非取材にお越しくください。

取材ご希望の方は、下記本件問い合わせ先(人事企画部人事企画課人材育成係)まで、取材希望日の3日前までにご連絡ください。